

# 大宅文庫ニユース

第80号

2013年1月15日発行

発行所

公益財団法人大宅社一文庫

理事長 枝廣映子

東京都世田谷区八幡山3-10-20

〒156-0056

電話03-3303-2000

## 大宅社一文庫は公益財団法人に移行しました

枝廣 映子

足掛け六年の難しい準備期間を終え、二

〇一二年四月、大宅社一文庫は、無事、公益財団法人へと移行することが出来ました。

そもそも公益とは何か、から始まったこの移行騒ぎ、収支相償だの正味財産増減計算書だの、コンサルタントの手を煩わさねばならないくらい難しいものでありました。ともあれ、大宅文庫が皆様のお役に立っていることはお認めいただいた、と受け止めることにいたします。

思えば大宅文庫は、父が集めた二十万冊の本が基になっています。父が旅先から送ったチッキ（鉄道貨物便）がドカーンと届けられると、初めの頃は、スワッおみやげか、と子供たちは喜んで開けましたが、出てくるのは、本ばかり、しかも古くてポロポロ。。。

もともと父は権威とかアカデミックなも

のより、人間の血が感じられる路地裏情報に価値を見出していました。大衆より半歩だけ先に立ち全体を見渡す、というのが彼の立位置でしたから、そういう情報たつぷりの雑誌や週刊誌が増えたのも当然の結果でした。

無趣味だった父の唯一の趣味が古本集め、と思っていました。今から思えば、自分の生きた「大正」時代を書き残すために集め続けていたのです。

明治から現在まで、雑誌は一万種、七二万冊にもなりました。収容能力に限界が来るのも目前です。

文庫の特色は雑誌中心というだけではありません。父自身が編み出した独特の項目に従って、索引データベースが作成され、いまのグーグルのように、いろいろな方向から検索が可能なのです。資料は「在る」

だけではだめで、「引き出して使えなくてはいけない」、のです。

折角集めた資料で大正史を書き初めてすぐ、父は体調を壊し、『炎は流れる』は未完で終わりました。そして遺言は、残った資料は「社独占ではなく、マスコミ共有の財産として活用してほしい、というものでした。遺言に従って母は、土地を買い上げた上で貸与して下さった講談社をはじめとして、メディア各社から基金の支援を得て半年後には財団法人を設立させました。

沢山の方々に利用していただいていると同様に、賛助会費、維持会費などをお願いして文庫の運営が来ています。雑誌などの寄贈も最初から変らなずいただいております。心から感謝申し上げます。

設立四十年も過ぎて、近年はウェブによる索引サービスも増加中。海外の大学・図書館などにも広く利用されるようになりました。

しかし一方で、インターネットですませずしてしまふ、という逆風の中にあることも事実です。公益とはいえ、少しは「営業」マインドも必要になってきたといえましよう。個人の方からのご寄付なども、税制上の優遇処置を生かしてお預りしていこうと思っております。

どうか今後ともよろしくお願い申し上げます。  
(大宅社一文庫理事長)

## 特集『炎は流れる』～新聞連載開始から50年～

今から五〇年前の一九六三（昭和三八）年一月一日、サンケイ新聞紙上で「炎は流れる」の連載がはじまった。

『炎は流れる』は、大宅壮一がライフワークとして取り組んだ「明治と昭和の谷間」にあたる、大正時代をテーマにした作品である。

大正時代は「偉大なる明治」と「現代」ということでいまもつづいている昭和との谷間にあつて、もつとも混乱した時代、見る人によつては軽蔑されている時代である。しかし、わたくしにとつては、いちばん懐かしい時代である。「明治に生まれ、大正に育つて世に出た人びとで、戦争の嵐をくぐりぬけて生き残っているものは……還暦をすぎて肉体的もしくは精神的に、社会から引退し、退場する時期が近づいているともいえる。そういう存在の一人として、大正期のことを書き残す責任がある」と「まえがき」に記した大宅壮一は還暦を二年過ぎて執筆に取りかかった。

さらに「歴史」といっても：現代とのつながりの弱いものは、わたくしにはたいして興味がない」「本書は『歴史』ではなくて、『旅行記』であり、ルポルタージュの

一種である。ことばをかえていえば、タテの紀行文だ」と続けて「まえがき」で言っている。第一巻「乃木大将と赤穂義士」で大正元年（一九一二年）・乃木大将の殉死から元禄時代の赤穂義士にさかのぼった物語は、万延元年（一八六〇）の遣米使節団、さらに幕末から維新の志士たちへと舞台は移つてゆく。

明治から幕末へ、漫遊しているわけではなく、一貫したものとして、「日本民族の精神構造」その中核をなしている。忠誠心の源流をさぐることに重点をおいた。封建的なものから脱皮して、近代的な民族主義にまで成長していく過程を追究し、そこにあらわれた日本人的特性をつかもうとしたのである。

「今日の日本人にとつて、民族としても、個人の場合でも、いちばん大切なものは、平衡感覚」ともいうべきものだ：時代により、年齢により、環境によつて、右に左に、大きくゆれるということそれ自体は、それほど悪いことではない。それはどっちかというところ、生物学でいう適者生存の原則に基づく環境への適応であつて、この原則にしたがわな

いものは、滅びていくほかはないのである。「幕末以後の日本人の歩んできたあとをふりかえつてみると、左右へのゆれかたが、あまりにもはげしかった。敗戦前後にも、幕末と同じような激震が日本の各界に起こり、その後二十年近くたって、「もはや戦後ではない」といわれるようになったいまでも、その余震はまだつづいている。」

「しかしながら、この現象は、……決して悲観

### ◆作品紹介◆『炎は流れる』

#### 第一巻 乃木大将と赤穂義士

明治の夕焼けをかざり大正の曙を告げる乃木大将の殉死事件。その意義を追究して徳川時代以来の日本的忠誠心の系譜を探る。明治天皇、乃木大将の死から筆をおこし、忠誠心の源流を求めて「忠臣蔵」にまでさかのぼる。

主な登場人物 乃木希典・新渡戸稲造・河上肇・赤穂義士

#### 第二巻 欧米文化との初交流

幕末にいたつて日本人の忠誠心が分裂し、新しい対象に戸惑う姿。次いで寛永一六（一六三九）年からざつと二百十五年間、鎖国の状態におかれていた日本民族が、黒船の渡来から、ジョン万次郎ら日本漁民の漂流、外国への使節派遣などによつて、はじめて欧米の近代文化に接触した時、精神構造にどのような反応があつたかを追求する。

高杉晋作・一橋慶喜・渋沢栄一・遣米

使節団（新見豊前守、村垣淡路守、小栗上野介など）・浜田彦蔵・中浜万次郎・

ハワイの日系人・福沢諭吉

#### 第三巻 外から見た維新前夜

遣米使節団の帰国の道をたどりながら維新前夜の海外事情をあきらかにする。アメリカでの大任を果たした一行はイン

すべきことではない。むしろ、日本人の民族的年齢の若さ、そこからくるスタミナの高さを示すものだともいえよう。問題は、ゆれることが多いとか少ないとか、その振幅が大きいとか小さいとかいうことにあるのではない。適当な時期、手おくれにならない前に、平衡をとりもどす能力があるかないか、あるいはその能力の強弱にかかっている。」

「日本民族の最大の欠点ともいべきものは、急激な事態の変化に直面したときに、希望的観測と悲観的観測が、ともに強く出すぎることである。どっちも盾の両面のようなもので、現実を正しく見て冷静な判断を下すという習慣の欠除もしくは弱さからくるものだ。」  
(第三巻あとがき)

大宅壮一は『炎は流れる』の資料収集に二十年をかけた。「大宅壮一がライフワークとして大正史を書き残したいのが念願で、その資料として集めたのが凡そ二十万冊に近い書籍であった。」(大宅昌「大宅文庫のこと」『丸善ライブラリーニュース』一九七二年三月一日号)この膨大な蔵書が大宅壮一の個人資料室となり、現在の大宅壮一文庫に受け継がれている。

下洋を経て香港・琉球に立ち寄って帰国する。とくに琉球事情、さらに朝鮮半島の動きを的確にえがいて、日本(忠誠心)とのつながりを立体的にとらえる。

琉球人の基本的性格が「離島性」にあるとすれば、韓国人の場合は大陸と離れられない「半島性」にある。これらと日本を結びつけて、その三角関係を見る。

遣米使節団・琉球からの海外移民  
第四巻 維新を形成した群像

伊藤博文と井上馨を中心にスタミナの高かった長州藩の動きと維新を演出した明治の元勳の活躍をとらえる。

また幕末日本で活躍したもつとも特異な人物である高杉晋作の活躍とその最期、勤皇博徒の日柳燕石や維新回天の大事業をまとめあげた坂本竜馬など維新を形成した群像を描く。

伊藤博文・井上馨・高杉晋作・日柳燕石・中山忠光・坂本竜馬

※各巻の副題は文藝春秋新社版単行本(以下単行本)に依りました。

「大宅壮一全集」には第二四巻から一巻ずつ二七巻まで収録。二七巻には単行本には収録されていなかった「文久二年の遣欧使節団」の章を収録。また単行本では第四巻に収録された最初の二章が全集では二六巻のおわりに収録されています。

執筆の準備としてその万巻の蔵書から、資料を抽出し整理する協力者を集めた話が『大宅文庫ニュース』第二十三号(八三年十二月)で紹介されている。「昭和三十七年一月：場所は大宅壮一文庫の前身である大宅資料室」、毎週水曜日に大宅壮一、愛弟子の末永勝介、元新潮社の樋崎勲、経済通の蒲生欣一郎、読売新聞の林泉の五名が集合して、各人が資料室内の資料から調査した結果を討議していた。やがて「メモのワラ半紙が山積みになり」当分、中止しようの言葉で終止符が打たれた。(林泉「炎は流れる」の生れた頃)

『炎は流れる』の執筆を始めた大宅壮一は、「膨大な資料に埋まって、机に向かっている時間が多く、運動不足で、メキメキ太り出し」「減量のため、思いきった減食をはじめ」だが「栄養失調に近い状態におちいり、スタミナがすっかり落ちて」しまった。

「生理的にも心理的にも最悪の事態」(第四巻あとがき)だった「昭和三十九年秋：執筆も三年目に入り」体調の悪化と「そして自らの健康への自信喪失と、心身ともに最悪のコンディションの時期」、大宅壮一がその「蔵書的一切を譲り渡したい」と言い出して、大宅文庫が「身売り」されるどころだったという秘話が、『大宅文庫ニュース』第三十一号(八七年一月)で明かされている。(根本正久「大宅文庫の身売り話」)

そして新聞連載は六四年一〇月三日号の第四四四回をもって休載となる。紙面には「あす四日から今月いっぱい：休載することになり

ました。十一月はじめから、構想もあらたにふたたび登場します」と記されたが、再開されることはなかった。四巻あとがきで「東京オリンピックがはじまるとともに、新聞紙面が輻輳するので、しばらく休ませてもらい」と書いているが、あたかも日本経済発展のとは口となる東京オリンピックの開催と引き替えに退場したかのようだった。「この機会に資料を再整備して、なるべく早く再出発したい」(四巻あとがき)が「：無念にも健康上の理由で中止になった。それとともに古書市漁りの道楽もパタリと止んだ。死ぬまで書きつづける意図が果されていたら多分もっと膨大な数になっていたであろう。」(前出「大宅文庫のこと」)

減量と体力回復のため悪戦苦闘している談話を綴った『文藝春秋』六四年八月号「一匹狼の「悪人」待望論」では、何事にもさからわず低姿勢態勢でケンカもしない、悪口を言わない、一匹狼のいなくなったなれあいの世の中を「忠誠心がうすれてきたというか、その対象がなくなってきた結果：戦時中は、天皇とか、国家、民族といった忠誠心の対象が明確だった。戦後、この対象がだたらたらと崩れて

|       |     |  |
|-------|-----|--|
| 1963年 | 1月  | 1963年ほどなんな年だったか？主なできごと   |
|       | 2月  | 国産第一号の連続テレビアニメ「鉄腕アトム」放送開始  |
|       | 3月  | 日本の巖窟王・吉田石松に無罪判決(吉田石松翁事件)<br>雑誌「平凡」連載の小山いと子「美智子さま」、<br>宮内庁から掲載中止の申入れ   |
|       | 4月  | 東京入谷で四歳児童誘拐(吉展ちゃん誘拐殺人事件)   |
|       | 5月  | NHK大河ドラマ第一作「花の生涯」放送開始<br>埼玉県狭山市で女子高校生誘拐され後に死体発見。<br>逮捕された容疑者は死刑判決を受けるが控訴(狭山事件)   |
|       | 6月  | 007映画シリーズ第1作。<br>「007は殺しの番号(ドクター・ノオ)」日本公開<br>黒部川第四発電所「黒四ダム」完成<br>ソ連の宇宙飛行士テレシコワ、女性としてはじめて宇宙へ<br>「わたしはカモメ」<br>英国政界セックス・スキヤンダル(プロヒューモ事件)<br>催奇形性のあるサリドマイドの被害者が損害賠償請求提訴<br>坂本九のヒット曲「スキヤキ(上を向いて歩こう)」が<br>米国ビルボードチャート一位に |
|       | 8月  | アメリカで人種差別撤廃などを求めるワシントン大行進。<br>キング牧師のスピーチ「私には夢がある」<br>キング牧師のスピーチ「私には夢がある」   |
|       | 9月  | 国鉄(現JR)、自動列車停止装置(ATIS)使用開始<br>地下鉄銀座線で時限爆弾が爆発(爆破魔・草加次郎)<br>十四年前に東北本線で起きた転覆事件で、<br>汽車転覆致死罪に問われた被告全員が無罪確定(松川事件)   |
|       | 10月 | 福岡県で強盗殺人。犯人を全国指名手配<br>(連続強盗殺人・西口事件)  |
|       | 11月 | 東海道本線貨物線の列車が脱線、<br>横須賀線の列車が二重衝突する事故(鶴見惨事)<br>福岡県の三井三池炭鉱でガス爆発(三井三池炭鉱爆発事故)<br>日米間初のテレビ宇宙中継で、ケネディ米大統領が<br>銃撃を受け死亡したニュースが伝えられる(ケネディ暗殺)   |
|       | 12月 | 横須賀で米軍原子力潜水艦寄港反対デモ(原潜寄港)<br>プロレスラー力道山、ケンカ相手にナイフで刺され死亡  |

しまつて、これに変わるものがない。国家に変わるに国連では、どうにも曖昧模糊として：対象にはならない」

「しかたがないから、会社という、自分に給料をくれるところを忠誠心の対象にしよとすると：給料をくれるのは当たり前としよう」となつて、特別これに忠誠心を誓つて、仕事をやる意欲もなくなつてしまふのだから。

：結局、ぎりぎりの線で忠誠心の対象になるものは、自分自身しかない。：と評している。連載が書き継がれ、忠誠心と日本民族の精神的構造が明らかにされていたら、それはどんな結論だったのだろう。

しかし『大宅壮一全集』二七巻で解説を担当した政治学者の猪木正道は「大宅さんは支離滅裂なことをしゃべつておられるのか」と、決してそうではない。普通の意味での筋はないかわりに、もつといきいきした筋が厳として存在している」「はじめもなければ終わりもない。細部に入れば入るほど面白くて有益なのが大宅さんの特徴だ」と書いている。何度でも読み直し、筋なき筋を追い、何よりも大宅節を楽しまれてはいかがだろうか。

『炎は流れる』サンケイ新聞連載全四四回  
一九六三年一月一日号～六四年一〇月三日号  
『炎は流れる 明治と昭和の谷間』

1～4巻（一九六四年）文藝春秋新社刊  
『大宅壮一全集』

24～27巻（一九八一年）蒼洋社刊  
文藝春秋より電子書籍版も刊行されています

### 歌舞伎になつた『炎は流れる』

文藝春秋元社長の故・上林吾郎氏が「本堂赤坂警察署長と国民新聞座間記者とのドラマを背景に：劇化を試みた」（『大宅壮一全集』月報16収載「炎は流れる」と私）

これが昭和四〇（一九六五）年二月一日より同二五日まで東京・歌舞伎座で上演された二月花形歌舞伎の『炎は流れる』である。花形歌舞伎は中堅若手中心の興行で、三越劇場や東横ホールで行われていたが、歌舞伎座で催されたのはこの公演からという。午前十一時開演の昼の部と午後四時三十分開演の夜の部の構成で、「国姓爺合戦」や武智鉄二作「恋湖双面影」、川口松太郎作「寒紅梅」など八つの演目のうち「炎は流れる」は昼の部最初の出し物であった。

『炎は流れる 明治天皇と乃木希典』は巖谷楨一・上林吾郎劇化演出で、「乃木さんの忠誠心のプロセスを、かれの遺書をめぐる警察と軍部の対決の中で、回想形式によつて掘えようと試みた」（上林吾郎「乃木さんの芝居」上演プログラムより）

原作のプロローグにあたる乃木大将の殉死の部分を五場で劇化しており、最初と最後の場面が本堂署長と座間記者の現代（大正元年）の場面、第二場が明治三十七年、旅順第三軍司令部で次男保典戦死の報を聞く乃木將軍、第三場が明治四一年、大演習の

折の御座所で、それまでに幾度か自決を企てた乃木を明治天皇がさす場面、第四場は明治四五年、乃木邸を訪れた本堂署長と、明治天皇危篤の号外を聞く乃木夫妻の場面で構成された。

配役は、明治天皇・十七代市村羽左衛門、乃木希典・三代実川延若、本堂平四郎・六代市村竹之丞（五代中村富十郎）、座間止水・三代市川猿之助（二代市川猿翁）だった。大宅壮一が上演プログラムによせた「はじめの経験」によると、演劇との関わりは雑誌『女性』（プラトン社）が脚本を募集した際、一幕物（全集二八巻収録の「早苗饗の夜」）を書いて送つたら「どういはずみか当選した」とことと、翻訳を手がけたボグダノフ著「赤い星」を「新劇団が取り上げて劇化」された程度であったので、この舞台がまさに唯一の劇化作品といえる。『炎は流れる』はノンフィクションで芝居になるような要素ははなはだ少ないと思つていたところ、完成した台本を見ると「たくさんの資料の中から有名な話や教科書めいた話はとりのぞいて書いた」原作とはちがいが「フィクションの線が強く一本通つていた」という。「見物席で：もつとも素直な観衆のひとりとして」観劇した大宅壮一はどんな感想を持ったのだろうか。  
※公演データ等は、公益財団法人松竹大谷図書館が所蔵する資料を参考にしました。

## 『大宅壮一文庫雑誌記事索引総目録』のデータを収録 Web OYA-bunko 本年4月リニューアル!

「雑誌記事索引検索Web版(Web OYA-bunko)」は二〇〇二年以来十年間、三六〇万件に及ぶデータを提供し、国内外で広く活用されています。

本年四月、五年ぶりにサーバーとアプリケーションをパワーアップ、新機能を盛り込みリニューアルいたします。

一九八七年以前の記事索引を収録、現行システムの一九八八年から最新までの記事索引データに加え、待望久しい『大宅壮一文庫雑誌記事索引総目録』収録データ一二〇万件が一挙搭載され検索できます。

古くは一八八八(明治二一)年四月発行『日本之時事』(博文館発行)「批評 東京七大新聞」「大坂事件裁判の破毀」から一九八七年までの百年分。激動の時代を映す雑誌記事索引で政治・経済から戦争・世相・芸能に至るまで著名人や事件・事象の索引が走馬灯の如く検索画面に再現されます。

『総目録』とは異なり、「人名」や「件名」の枠を越えて、記事タイトル本文中の言葉や執筆者名を検索。また雑誌名・発行年月日からの逆引き検索や、インタビュ記事のみ抽出といった、自在な検索が可能になります。

データ更新とパフォーマンスの改善  
漢字処理機能の改善と共に、毎週一回の定期更新は毎週二回に増やし、随時最新の記事索引がお手元に届きます。  
処理スピードの飛躍的向上とシステム安定をはかり皆様のご期待に応えます。

「Web 法人会員版」表示件数改善  
「Web 法人会員版」は基本料金が割安に設定されていますが、検索表示件数に応じて従量料金が課金されます。ご予算に合うように入力件数を細かく設定できます。

「キーワード入力画面」  
「松田聖子」と入力。検索ボタンを押す。

「課金確認画面」  
「松田聖子」の収録件数を表示。

「新しい順」「古い順」と、表示件数を一件から五〇件まで一〇件さきで指定。

「新しい順」で「二〇件表示」を選択。  
「索引表示画面」  
「松田聖子」の記事索引が「新しい順」に「二〇件」表示される。

必要な記事をオンライン受付複写で申込む。  
利用データ保存期間の延長  
管理担当者利用情報(課金情報)の「オンライン受付複写サービス申込書」表示の保存期間が二ヵ月間に延長されます。

時事や世相の移り変わりを反映する雑誌記事索引で研究書や単行本では垣間見られない真実を発見できます。

一ヶ月間無料で引き放題!  
トライアルサービス申込受付中  
只今、「トライアルサービス」実施中です。この機会に是非お試し下さい。

【利用対象】  
・ 法人会員版：大宅壮一文庫の法人会員。  
・ 教育機関版：日本国内の教育機関。(学校法人)  
・ 公立図書館版：国または地方公共団体の設置する公立図書館。

【申込方法】  
・ 法人会員版：Web OYA-bunko 管理室までメールでお申込み下さい。  
(web.oyakanri@oya-bunko.or.jp)  
メールの「件名」には「トライアル希望」と記入し、「本文」には①申込者氏名②会社名または団体名③部署名④電話番号⑤FAX番号を記載して下さい。メールで「トライアル申込書」を返信いたします。

・ 教育機関版、公立図書館版：当館ホームページ、トップページ右下のリンクから「Web OYA-bunko 利用案内」をご覧下さい。「無料トライアル申込書」もダウンロードできます。  
(http://www.oya-bunko.or.jp/)

詳しくはWeb OYA-bunko 管理室までお問い合わせください。  
電話 03-33303-9968

## 2012年を大宅壮一文庫作成の件名キーワードで振り返る

当館の雑誌記事索引データのキーワードは、利用者のニーズに応じ、素早く確実に必要な索引データにたどりつくために作成しています。世間の注目を集めた事件・事故の発生など社会の出来事を如実に表しています。

2012年に作成した主要な件名キーワードを紹介して一年を振り返ってみました。

【 】は大項目、件名キーワード→「小項目」、キーワードの記事件数(2012年12月調査)

### 【政治・その他】

- ・秘密保全法案→「機密保護法」18件
- ・2012年衆院選→「2012年衆院選」77件
- ・減税日本→「その他の政党一般」16件
- ・国民の生活が第一→「その他の政党一般」40件
- ・日本維新の会→「その他の政党一般」89件

### 【経済】

- ・ブラック企業→「企業と社員」33件
- ・エアアジア→「航空各社」15件
- ・ジェットスター→「航空各社」14件
- ・A I J投資顧問→「相場師、買占め」76件

### 【農・漁業】

- ・海外進出→「農家経営」24件

### 【世界】

- ・領土問題→「戦後国際政治一般」10件
- ・B O Pビジネス→「国際社会一般」37件
- ・金正恩政権→「政治一般(北朝鮮)」216件
- ・領土問題→「外交一般(中国)」86件
- ・フォックスコン(富士康)=ホンハイ(鴻海精密工業)  
→「経済、産業(台湾)」69件
- ・アサド政権(2000～バッシュール)  
→「シリア一般」67件
- ・L I B O R→「金融(イギリス)」22件
- ・オランダ政権→「オランダ政権(フランス)」11件
- ・ウォール街デモ(=オキュパイ・デモ)→  
「社会問題一般(アメリカ)」64件
- ・オスプレイ(=V22)→「兵器(アメリカ)」70件

### 【災害】

- ・南海トラフ地震予測→「予知」102件
- ・復興庁→「東日本大震災(2011)」12件
- ・関越道高速バス事故(2012)→「交通事故一般」24件

### 【犯罪・事件】

- ・六本木クラブ集団暴行死事件(2012)→  
「殺人事件一般」21件
- ・尼崎・連続不審死事件→「大量殺人、連続殺人」40件
- ・アノニマス→「コンピューター犯罪」17件

### 【世相】

- ・麴→「その他食品・料理」99件
- ・マイナンバー(=共通番号制度)→  
「一億総背番号制」33件
- ・チャリティマッチ→「チャリティ」48件
- ・買い物難民→「消費一般」25件

### 【世代】

- ・大津・中学生いじめ自殺(2011)→  
「校内暴力、家庭内暴力」58件

- ・サービス付き高齢者向け住宅(=シニアハウス)→  
「老人ホーム」39件

### 【おんな】

- ・街コン→「ハント、テクニク」30件

### 【交通機関】

- ・新東名高速道路(=第2東名高速道路)→  
「高速道路」35件

### 【趣味・レジャー】

- ・ゲームアプリ→「携帯電話ゲーム」89件
- ・ソーシャルゲーム→「携帯電話ゲーム」65件
- ・ミラーレス一眼カメラ→「機種、性能、特殊写真」64件

### 【スポーツ】

- ・ロンドン大会(2012)→「パラリンピック」20件
- ・ロンドンオリンピック(2012)→  
「ロンドン大会(2012)」346件

- ・裏金→「裏話(プロ野球・巨人)」53件
- ・アコーディア・ゴルフ→「会員権、ゴルフ場」45件

### 【芸能・芸術】

- ・テルマエ・ロマエ→「日本映画・テ」23件
- ・ヘルタースケルター→「日本映画・ヘ」38件
- ・アーティスト→「外国映画・ア」39件
- ・マネーボール→「外国映画・マ」22件

### 【マスコミ】

- ・ビッグデータ→「情報文化」19件
- ・梅ちゃん先生→「NHK朝のテレビ小説」33件
- ・L I N E→「携帯電話」25件
- ・スマートフォン→「携帯電話」812件
- ・L T E→「通信」22件
- ・N H N→「インターネット」14件

### 【教育】

- ・秋入学制→「入学、卒業」51件
- ・i P S虚言騒動(2012)→「学者、教授」28件

### 【科学】

- ・L H C→「物理学」33件
- ・ヒッグス粒子→「物理学」39件
- ・東京ゲートブリッジ→「橋」11件
- ・原子力規制委員会→「原子力一般」35件
- ・大飯原発→「原子力発電」133件
- ・海底資源(=海洋開発)→「海洋」66件
- ・長寿遺伝子→「遺伝、生命」57件
- ・胃ろう→「末期医療」18件
- ・新型うつ病(=非定型うつ病)→  
「うつ病、躁うつ病」64件

- ・分子標的薬→「薬(ガン)」66件
- ・エナジードリンク→「食品による健康法」19件

### 【地方】

- ・排他的経済水域(=EEZ)→「国境、近海」34件
- ・都知事選(2012)→「都知事選(2012)」11件
- ・渋谷ヒカリエ→「渋谷区」40件
- ・押上→「墨田区」29件
- ・東京スカイツリータウン→  
「東京タワー、東京スカイツリー」17件
- ・東京ソラマチ→  
「東京タワー、東京スカイツリー」24件

# 文庫の近況

【ご寄付のお申込み・お問合せ】  
 総務課寄付係  
 電話 03-3306-4661  
 メール kifu@oya-bunko.or.jp  
 【振込み口座】  
 ゆうちょ銀行〇〇八(和和)支店  
 普通口座 9968661  
 口座名 公益財団法人大宅壮一文庫

## 【誕生分館臨時休館のお知らせ】

埼玉原越生分館は、二〇一二年十一月二十八日(水)から一三年二月四日(月)まで冬季休館中です。

また越生分館は、二月五日(火)より、左記の通り毎週一回の開館となります。

## 【開館時間】

毎週火曜日(祝日休館)

午前十一時から午後四時まで開館

(十二時から一時まで昼休み)

越生分館に所蔵する、雑誌・書籍の東京本館への取り寄せにはお申込みから数日かかりますのでご了承ください。

## 【雑誌図書館運営費・寄付のお願い】

大宅壮一文庫は、創立以来四十年余明治大正昭和から現在に至る雑誌一萬種、七〇万冊超を提供するとともに、独自の雑誌記事総合検索システムを構築し、広く国内外で活用されています。おかげ様で資料収納のための書庫増改築はもとより、検索システムは五年

ごとに一億円超の設備投資と年間二千万円超の維持費で運営されています。

本年四月のシステム切り替え後も、二〇一八年に向け、引き続き移行資金を備蓄しなければなりません。

ご支援を心よりお願いいたします。

## ■追悼・三宅菊子様

昨年八月、フリーライター・三宅菊子様が逝去された。享年七三。

三宅様には当財団設立まもない一九七三(昭和四八)年に「週刊平凡」「平凡パンチ」「ヤングレディ」「婦人倶楽部」など九種類二五二冊、翌七四年にも「世界ニュース」二四九冊を寄贈していただいた。特に七三年のご寄贈はすべて当館に所蔵のない欠号を補った。ご寄贈いただいた雑誌は今なお現役で大活躍している。

作家・三宅艶子氏の息女として生まれた三宅さんは、五八(昭和三三)年、単身スクーターで東京から鹿児島まで七〇日間六〇〇〇キロの旅に出た。若い女性のひとり旅は珍しく大きく報じられた。(娘ひとり武者修行)『文藝春秋』同年九月号など) 六五年結婚。夫から「自分で食うものを自分で稼ぐなら結婚してやる」と言われ働き始めた。スクーター旅行の取材をした編集者との再会から「週刊平凡」(当時平凡出版)の仕事をするようになり、「屁理屈こねずに読者にわかりやすく面白く書く」ことを仕込まれる。八五年から「クロワッサン」で連載された宇野千代「ちょっと自伝 振袖櫻」と八九

年から「anan」で連載された「淀川長治の新シネマトーク」の聞き書きを担当、好評を得た。九〇年に編集事務所4Bを設立。「フィガロジャポン」や「家庭画報」でも健筆をふるった。

七四年一月発行の『大宅文庫ニュース』第四号巻頭に「寄稿いただいた大宅学校の偽学生」では、「原稿書き商売になった世界には、大宅学校の卒業生が大をなしていた」こと、夫・佐藤一氏(〇九年他界)が「下山事件」研究のため、個人資料室時代の大宅文庫を訪れ、蔵書量と整備された分類カードに喜び、「仕事で得たお金をあのような形に還元している。エライ人」と感心したこと、そしてNHKの「ラジオ家族会議」で共演した大宅壮一長男・歩氏が亡くなって何ヶ月目か、「肩を落として、ひとまわり小さくなって」しまったような大宅壮一と銀座で出合い「さまざまなお話をこめて：おじぎをした」ことなどのエピソードをご披露いただいた。ご生前のご高援に深く感謝し謹んで哀悼の意を表します。

## 【ホームページで索引を紹介】

昨年七月発行の「大宅文庫ニュース第七九号」で「ロンドン五輪注目選手ランキング」を特集しましたが、開催直前まで代表選手が決まらない競技もあり、確定版をお伝えできませんでした。そのため「この選手がランキングから落ちている」等のご指摘をいただき、あらためて大宅壮一文庫ホームページ(<http://www.oya-bunko.or.jp/>)にて、

「確定版」を抽出しました。

今号ではメダルを獲得した選手の索引ランキングトップ一〇を紹介します。

- 1 北島康介(水泳) 銀
  - 2 福原愛(卓球) 銀
  - 3 室伏広治(陸上・ハンマー投げ) 銅
  - 4 澤穂希(サッカー) 銀
  - 5 木村沙織(バレーボール) 銅
  - 6 吉田沙保里(レスリング) 金
  - 7 石川佳純(卓球) 銀
  - 8 竹下佳江(バレーボール) 銅
  - 9 入江陵介(水泳) 銀・銅
  - 10 内村航平(体操) 金・銀
- ホームページでは続いて索引ランキング特別編として、「没後一〇〇年 乃木希典陸軍大将・乃木希典と同時代の軍人件数一覧」(1・乃木希典 2・東郷平八郎 3・山形有朋)、「第七〇代横綱日馬富士公平誕生！歴代横綱ランキング」(1・貴乃花光司 2・若乃花勝 3・朝青龍明徳、外国出身力士ランキング」(1・朝青龍明徳 2・曙太郎 3・小錦八十吉)を掲載しました。今後ともタイムリーな索引を、ホームページで紹介いたします。

## 【雑誌・書籍寄贈受入(個人)】

- 南袈婆雄 辻美智代 林栄子 羽川 恵三 吉野貞慶 國吉實 坎有行 菅原治子 安原照雄 山口光弘 長原春雄 井熊正夫 田中雅子 八尾淳之 仲本淳 (敬称略・受入順)

この他に各雑誌の出版元から、定期的にご寄贈いただいております。ありがとうございます。